

W140a **MAXI が検出した 2015 年度後半の突発現象と検出限界光度近くの突発天体の検出**

根来 均, 中島基樹, 田中一輝, 増満隆洋 (日本大学), 芹野素子, 杉本樹梨, 三原建弘, 松岡 勝 (理研), 中平聡志 (JAXA), 坪井陽子, 兼藤聡一郎, 中村 優美子 (中央大学), 河合 誠之 (東工大) ほか MAXI チーム

15 年 9 月の秋季年会以降、12 月 7 日までに、MAXI チームから 11 件の The Astronomer's Telegram (ATel) への突発天体の報告と、2 件の The Gamma-ray Coordinates Network (GCN) への GRB の検出の報告を行った。2 つの新天体起源の可能性のある増光 (MAXI J1714-130: ATel #8050, MAXI J1135-606: ATel #8322) を検出、報告したが、ともに Swift/XRT の追観測によって対応天体は発見されなかった。一方、今年の 5 月に発見された新天体 MAXI J1957+032 の増光が 10 月に検出され (ATel #8143)、Swift/XRT の追観測で数日間ほどで減光する特徴的な活動が観測された。天体の正体はまだわかっていない。また、Be パルサー GX 304-1, A 0535+26 (ATel # 8055), GS 0834-430 (#8175), 4U 0115+63 (#8179) のアウトバーストの検出に加え、小マゼラン星雲の Be パルサー SMC X-2 の活動が 15 年ぶりに捕らえられた (ATel #8088)。

これら以外にも、dMe 型星 YY Gems (ATel # 8090), RS CVn 型星 GT Mus (ATel # 8285) からの超巨大フレア、低質量連星系 IGR J17062-6143 から数時間続いたスーパーバースト的な活動 (ATel # 8252)、ブレーザー 1ES 1959+650 の増光 (ATel # 8165)、そして、GRB 151027A (GCN 18525), GRB 151112A (GCN 18596) の検出も行った。講演では、これまでの XRT の追観測によって検出されなかった天体を含め、MAXI/GSC 検出器の検出限界近くの突発天体の検出についても報告する予定である。